

事業所の概要表

(令和 6年12月 1日現在)

事業所名	グループホームやわらぎ川内					
法人名	有限会社 やわらぎ					
所在地	愛媛県東温市南方1787-2					
電話番号	089-966-6413					
FAX番号	089-966-6419					
HPアドレス	http://www.yawaragi-ehime.com/					
開設年月日	2004年 12月 1日					
建物構造	<input checked="" type="checkbox"/> 木造 <input type="checkbox"/> 鉄骨 <input type="checkbox"/> 鉄筋 <input checked="" type="checkbox"/> 平屋 ( ) 階建て ( ) 階部分					
併設事業所の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( )					
ユニット数	2 ユニット		利用定員数 18 人			
利用者人数	18 名 ( 男性 4 人 女性 14 人 )					
要介護度	要支援2	0 名	要介護1	2 名	要介護2	7 名
	要介護3	2 名	要介護4	5 名	要介護5	2 名
職員の勤続年数	1年未満	2 人	1~3年未満	3 人	3~5年未満	4 人
	5~10年未満	4 人	10年以上	7 人		
介護職の取得資格等	介護支援専門員 2 人		介護福祉士 11 人			
	その他 ( 社会福祉士 )					
看護職員の配置	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ( <input type="checkbox"/> 直接雇用 <input checked="" type="checkbox"/> 医療機関又は訪問看護ステーションとの契約 )					
協力医療機関名	藤本内科クリニック たかのご歯科					
看取りの体制 (開設時から)	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ( 看取り人数: 14 人 )					

利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	35,000 円	
敷金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円	
保証金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円 償却の有無 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有	
食材料費	1日当たり	1,300 円 ( 朝食: 329 円 昼食: 490 円 )
	おやつ:	0 円 ( 夕食: 490 円 )
食事の提供方法	<input type="checkbox"/> 事業所で調理 <input type="checkbox"/> 他施設等で調理 <input type="checkbox"/> 外注(配食等) <input type="checkbox"/> その他 ( )	
その他の費用	・ 水道光熱費	510 円
	・ 共益費	185 円
	・	円
	・	円

家族会の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (開催回数: 回) ※過去1年間		
広報紙等の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (発行回数: 回) ※過去1年間		
過去1年間の運営推進会議の状況	開催回数	6 回 ※過去1年間	
	参加メンバー ※□にチェック	<input checked="" type="checkbox"/> 市町担当者	<input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 <input type="checkbox"/> 評価機関関係者
		<input checked="" type="checkbox"/> 民生委員	<input checked="" type="checkbox"/> 自治会・町内会関係者 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣の住民
		<input checked="" type="checkbox"/> 利用者	<input type="checkbox"/> 法人外他事業所職員 <input checked="" type="checkbox"/> 家族等
	<input type="checkbox"/> その他 ( )		

# サービス評価結果表

## サービス評価項目

(評価項目の構成)

### I. その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

### II. 家族との支え合い

### III. 地域との支え合い

### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ職員みんなで自己評価!  
ステップ外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー  
“愛媛県地域密着型サービス評価”

新型コロナウイルス感染防止対策を十分おこない  
訪問調査を実施しております

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市三番町6丁目5-19扶桑ビル2階
訪問調査日	令和7年1月14日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	18	(依頼数)	18
地域アンケート	(回答数)	6		

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

#### ※事業所記入

事業所番号	3871500025
事業所名	グループホームやわらぎ川内
(ユニット名)	A棟
記入者(管理者)	
氏名	片岡 直紀
自己評価作成日	2024年12月10日

<p>【事業所理念】※事業所記入</p> <p>一、かけがえのない人生の終盤期を住み慣れた地域で暮らしていることが出来るよう支援します。</p> <p>一、人間としての尊厳を大切に、自己決定権と個性の尊重に努めます。</p> <p>一、毎日がイキイキ・ワクワクとすごせるよう工夫と努力をします。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入</p> <p>【項目13】戸外にでたいと希望されるかた、ひとり一人の希望を叶えることができる。 ・地域のサロンからお声をかけて頂き月に1度参加できている。ご家族に協力して頂き外出ができるようになった。 ・畑を作り水やりして外に出て頂いている。紅葉ドライブに行けた。※拒否される方等は無理にはお誘いしていない。 【項目37】本人と共に支え合う家族との関係づくりと支援について「やわらぎで何でもはなそう会」を発足しご家族の交流の場を設けることで、関係性を深めることができる。 ・「やわらぎ何でも話そう会」はまだ発足できていないが、それに向け運営推進会議との抱き合わせで喫茶をデモとして開くことができた。 ・外出支援をケアプランに立てることで、ご家族様と協力しながら支援することができた方もいる。 【項目40・48】運営推進会議を活かした取り組みについて ご家族や地域の方、また東温市の職員の方や地域包括支援センターの職員の方にモニターになって頂くことで意見交換ができるようになり、ご協力頂くことで多くの情報が入るようになってきた。 【項目50】災害へのそなえについて、地域住民や近隣の他事業所と連携を図り、合同の訓練や話し合う機会を作る等、協力・支援体制を確保することができた。 ・運営推進会議と抱き合わせでは、地域の方や包括の職員さんも協力して頂き、AED訓練等ができた。 ・9月17日より川内地区の協議体に参加させて頂き、地域の災害のそなえについて意見交換し連携を図ることができるようになった。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>B棟では、室内で猫を4匹、犬1匹、小鳥を飼っており、ペットと暮らす環境を整備している。猫が来訪者を迎えてくれる。動物好きな利用者が入居しているため、一緒に猫を可愛がる等、共通の話題で楽しんでいる。</p> <p>月に1回、地域の有志で行うサロンに参加しており、サロンメンバーが利用者の送り迎えもしている。 ボランティアの人が5~6年継続してかかわってくれており、飼犬(20才)の散歩を続けてくれている。また、事業所で行う歌の会の折にレコーダーを吹いてくれたりしている。 令和6年から森地区のふれあいサロンに利用者と職員で参加しており、地域の人と一緒にハロウィンを作ったり、手遊びをして遊んだりしている。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I. その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1) ケアマネジメント</b>									
1	思い暮らし方の希望、意向の把握	a 利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○ 利用者様と会話をする中で、希望や意向の把握に努めている。多人数でのレクリエーションや、個人で静かに過ごすなど、無理強いをすることがないように気を配っている。	◎		◎	◎	入居時は、本人や家族から、楽しみや生活上の希望などを聞き、イラストを付けて用紙にまとめており、一年毎に更新している。 日々の中で聞いた思いや希望は、タブレット端末の介護記録に●印を付けて本人の言葉をそのまま記録している。言葉で意思を伝えることが難しい利用者については、その時の表情やしぐさを記録している。 調査訪問日には、介護相談員の訪問(月1回)があり、相談員は利用者の話を聞いていた。	
		b 把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○ 把握が困難な場合は、今までの様子やご家族からの意見等を踏まえて、「本人はどうか」という視点で検討するようにしている。	○					
		c 職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○ ご家族の面会時には職員からも声を掛けるようにし、普段会うことがない親戚が来られた際は、関係や思い出を聞くようにしている。	○					
		d 本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○ スタッフ会等で個別に記録は行っている。	○					
		e 職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○ 利用者様へ声掛けした際のリアクションにより、その都度対応を変更していくようにしている。	○					
2	これまでの暮らしや現状の把握	a 利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎ 入居時にご本人やご家族から聞き取りを行い、入居後も世間話の際やご家族との面会時にお話を聞くようにしている。	◎			◎	入居時、本人や家族、以前の担当ケアマネジャー、医療関係者から、性格、趣味、好きな食べ物、アレルギー、生活歴、職歴等を聞き取り、アセスメントシートにまとめている。 日々の中で知り得た情報は、介護記録に記録している。	
		b 利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○ レクリエーションへの参加やお手伝いなど、出来る事や楽しそうな瞬間を探すようにしている。	○					
		c 利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に務めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○ 日々の記録や申し送りにより、笑顔になる場面や不穏になる場面を確認し合い、対応や介助方法を検討している。	○					
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a 把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○ スタッフ会にて定期的に検討している。ご家族からの意見とご本人の意見が違う場合などもあるので、面会時は複数の家族に話を聞くようにしている。	○			◎	職員会時には、タブレット端末の介護記録の●印の情報(利用者本人の思いや希望に関すること)、モニタリングシートや職員の情報をもとにして検討している。	
		b 検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○ モニタリングシートにより課題を設定している。	○					
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a 本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎ 個別に計画を行い、ご本人の意向や暮らし方を反映するようにしている。	◎				家族は、個人の端末からログインすると利用者本人のバイタルサインや日々の記録をリアルタイムに確認できて、意見を書き込むこともできる。 家族の意見や医療関係者の助言、職員の意見、アイデアを採り入れて介護計画を作成している。 利用者の精神面の安定に向けて、家族の協力のもと、週2回、家族との外出を介護計画に採り入れているケースがある。	
		b 本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎ 面会時やご家族へのお手紙で職員の考えやご家族の意見を確認し、ご本人の意見や様子に合わせて計画を行っている。	◎		○	◎		
		c 重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○ 寝たきりの状態にならないように、フロアでの生活を基本に考えて計画を行っている。	○					
		d 本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○ 地域の方による歌の会への参加や、ご家族による散歩等も盛り込んでいる。	○					
5	介護計画に基づいた日々の支援	a 利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○ 毎月のスタッフ会で内容の検討・周知を行い、会議記録の作成や計画の変更等もやっている。	○			◎	職員会で計画について話し合う機会があり、職員の把握、理解につながっている。介護計画を更新したら、タブレット端末内に赤い○が表示され、職員個々に確認している。	
		b 介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○ モニタリングシートを利用して確認を行い、日々の記録媒体にもケアの項目が目に入りやすくしている。	○			◎	タブレット端末の介護記録は、短期目標が上部分に表示されるようになっており、「ケアプラン」と入力してから、支援内容や利用者の言葉、表情、エピソードなどを記入している。必要があれば写真を添付している。また、記号やワードを統一しており、検索して情報を集めて毎月のモニタリングに活用している。	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	3ヵ月プラン、6ヶ月プランと期間を区切り、計画の見直しを行っている。			◎	管理者は、一覧表で期間を管理しており、3～6ヶ月ごとに見直しを行っている。	
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月スタッフ会を開催し、現状の確認を行っている。			◎	月1回の職員会時には、利用者個々の担当職員が作成したモニタリングシートをもとにして、すべての利用者について現状確認を行っている。	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	変化があった場合はご家族への報告を行うと共に、計画の変更もしている。			◎	この一年間では、退院時に身体状態に変化がみられたことに伴い介護計画を見直した事例がある。	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎月のスタッフ会は開催しているが、緊急案件の場合には施設長やケアマネージャー等と話し合いができています。			◎	月1回、ユニット別に職員会を行い、議事録を作成している。	
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	毎月司会と記録を変えて会議を開催し、担当者の発表の後は自由な意見を求めるようにしている。				A棟は第4水曜日、B棟は第4月曜日、17時から職員会を行っており、ほぼ全職員が参加している。法人代表者も参加している。	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	毎月第4水曜日に会議を開催し、全職員が参加するようにしている。			◎	全職員が議事録で内容を確認して押印またはサインをするしきみをつくっている。	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	記録媒体への記録と申し送りをし、重要な内容は表示方法が変わるようになっていく。	◎		◎	利用者の様子、業務連絡、家族からの伝言などは、タブレット端末の申し送り欄に記入している。未読の申し送り項目には色が付く仕組みで、管理者には、誰が確認したか、していないかが分かる。	
<b>(2) 日々の支援</b>										
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	会話により把握するようには心掛けている。				利用者の自己決定権を事業所理念に掲げている。月に1回、パンの移動販売を利用して、利用者が好きなパンを選んで買う機会をつくっている。お茶の時間には、数種類の飲み物の中から好きなものを選んでもらうようにしている。	
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	利用者それぞれに意見や希望を聞き、判断をさせていただけるように心掛けている。			○	電動ペダル運動をする利用者、タブレットで好きな動画をみながら運動ができるよう、興味のある動画を複数提示して選んでもらっている。利用者は笑顔で運動に取り組めるようだ。	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	起床や食事などは希望や状態によって個別対応を行っている。				共用空間には、テーブル席の他に複数人で利用できるソファを各所に置いており、職員は利用者の隣に座って一緒にしゃべったり、遊んだり、業務をしたりしていた。	
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うろたえ等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	◎	利用者様一人ひとりに合わせた言葉かけを行い、笑顔が引き出せるように対応している。			◎	農業をしていた利用者、専用の畑をつくり、○○さんのファームと立て札を付けていた。本人は、「草引きをせなかんない」と言って楽しく活動する機会になっている。	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らしができるよう支援している。	○	表情や手足の動きなど、小さな反応でも見逃さないようにしている。そのような反応があったときは記録を残すようにしている。				B棟では、室内で猫を4匹、犬1匹、小鳥を飼っており、ペットと暮らし環境を整備している。	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であらかじめ介護や誘導の声をかけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	◎	言葉遣いには気を付けて、尊厳を気付けられないように意識して行動している。	◎	◎	○	法人全体の取り組みとして、ユニチュード実践者育成4日間研修を全職員が受講できるよう取り組みをすすめているところである。事業所からは、令和5年11月に2名、令和6年4月に4名が受講している。法人代表者は、職員会に毎回参加して、企業理念等に沿って人権や尊厳に関する話しをしている。管理者は、日頃から職員に利用者への言葉遣いなどに気をつけるよう話している。	
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	「自分だったらどう思うか」を基準にして、介助を行うようにしている。					
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室に出入りする際は、ご本人に声掛けを行っている。				○	管理者は、利用者に許可を得てから入室していた。転倒の心配がある利用者の居室について、家族と相談して、夜間のみペットカメラを設置し、利用者の物音がする時に、職員が離れた場所から安全確認ができるようになっているケースがある。
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	個人情報の管理や情報漏洩防止に努めている。					
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者介護される一方の立場におかず、利用者にも助けを求めたり教えたり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	互いに協力し、感謝し合う関係性を作るようにしている。					
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	ともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解し、見守りや支援を行っている。					
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらった場面をつくる等)	◎	広く交流する場を設けたり、仲の良い利用者様同士が話せる状況を作ったりしている。また一人を好む方には無理強いはいないようにしている。				○	利用者同士でトラブルになりそう時には、職員が間に入り、距離をとったりして対応している。夫婦が別ユニットを利用しているケースがあり、時々、会いに行けるよう支援している。B棟では猫などのペットを飼っており、動物好きな利用者が入居しているため、一緒に猫を可愛がる等、共通の話題で楽しんでいる。
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	自然な形でトラブルを防げるように、職員が間に入り日々の生活の支援を行っている。					
12	馴染みの人や場所との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	居時にお話を聞くとともに、入居後もご本人やご家族の会話の中で情報を得るようにしている。					
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	◎	知人や友人の面会はありますが、個人的な外出はご家族の同伴にてできている。					
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	◎	ご本人やご家族から希望がある場合は個別で検討することもある。基本的にホーム内で過ごされることが多いが天気の良い日はテラスや庭に出て過ごしていただく機会を設けている。	○	△	△	日常的には、テラスに出たり、庭に出たりして過ごせるよう支援している。地域のサロンに出かけたり、地域の有志で運営する近くにあるサロンに出かけたりしている。秋には、純川渓谷に紅葉狩りに出かけ、外食をしようとした。今後は、利用者の行ってみたいところや懐かしい場所等に出かけてみるような機会をつくってみたい。また、思い出の店や食べ物等を探り、出かけるきっかけにしてみたい。時期等をみながら活動を広げていってほしい。	
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	地域の方の協力で、歌の会やみかん狩り、畑での収穫等を行っている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひととき、取り除くケアを行っている。	○	行動を起こす理由を考え、違うアプローチをするなどのようなアクションがあるか試している。安心して落ち着いた状況を作れるように心掛けている。				お茶の時間(10時と15時)前に、テレビ体操・足踏み運動・リズム運動を行う時間をとっている。おやつの前には、職員が利用者個々に「体操しますよ」と伝え、テレビの前のソファの場所に集まってもらい、体操を行っていた。昼食後、車いすの利用者が、歯磨きの後、台所に来て、立って洗いをする様子がみられた。現在、洗いをする利用者が2名おり、昼食後、夕食後と担当を決めて行ってもらっている。車いすは、いつでも座れるよう本人の後ろに備えておき、職員は台所内で別の用事をしながら見守っていた。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	何もかも介助してしまうのではなく、時間をかけても出来る事や、回数を減らせば出来る事などは見守りを行い、現状を維持できるように支援している。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	自立支援を大切にしており利用者のご自身でできることはなるべくしていただくようにしている。	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	洗濯物たたみや食材の下準備など、利用者様の出来る事をしていただいている。				地域のボランティアの方が事業所の飼犬の散歩をしてくれた後、ソファで休む時に、新聞を読むので、ボランティアの方に今日の新聞を渡してくれる利用者がある。はじめは、職員がサポートしていたが、続けることで自主的に行うようになっていく。誕生日には、職員の手作りケーキとリクエスト献立にプレゼントを用意してお祝っている。季節に応じて、庭の柿やイチジクの収穫なども楽しみに行っている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	その時々合った楽しみや役割をみつけられるように、声掛けや支援を行っている。	○	◎	○	
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	ご本人の意思にて洋服を選んでいただいている。				利用者個々に自分専用のボックスティッシュを用意している。昼食中、職員は、利用者の食事介助をしながらその都度、口元をティッシュで拭いていた。利用者は、季節に合った清潔な洋服を着て過ごしていた。  2か月に1回、訪問美容師がきて、個々の希望を聞きながらカットしている。職員が送迎したり家族が付き添ったりして、美容室を利用し、パーマ等をかけるような人もいる。自分で髪を三つ編みにして化粧をするような人もいる。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	◎	ご本人の持ち物や、新しい物はご家族による購入などにより生活していただいている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	ご本人の気持ちに添えるように考えて支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	季節により服装は変えている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	整容時は自然な形で確認を行い、必要な場合は介助を行っている。衣類の汚れや汚染が発生した場合は、居室等で着替えなどを行っている。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	ご家族と美容室に同行される。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	清潔に過ごせるように支援を行っている。			◎	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一流のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事の好みや量、調理法やミキサー対応など、利用者様の好みや嚥下能力を把握し、楽しい時間を過ごせるように工夫している。				食材は業者に注文して配達してもらっている。調理担当職員がその日の食材をみて、利用者の希望を踏まえ、献立を決めて調理をしている。ユニットごとに献立が違う。野菜の皮むきや、味見、テーブル拭きや食器洗い・食器拭きなどは、利用者が行えるように場面をつくっている。  野菜や果物など、職員や地域の人からの差し入れや、事業所の畑で収穫したのも等も採り入れながら、季節感を大切にしたい食事をつくっている。季節の食材で利用者に懐かしい、おもむきごはん(甘めの混ぜご飯)をつくったりしている。  自宅から茶碗や湯飲み・箸を持ち込んでもらい使用している。壊れた場合は、事業所で個人用に用意している。行事等、献立内容によっては、白いランチプレートに彩りよく盛り付けている。  職員は、利用者のとなりに座り、同じものを食べながら介助していた。むせて咳をする利用者の中には、パーテーションを付けていた。  居間から台所の様子が見える。調査訪問日の昼食前には、天ぷらを揚げる音やにおいがしていた。職員は、「できましたよ」と言って配膳し、メニューや食材を伝えて介助していた。歯茎で噛んで食べる利用者もあり、柔らかく調理するようにしている。  同じような食材が続かないように気を付けている。味付けや調理方法などについては、その都度、職員で話し合っている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともに進んでいる。	○	希望を聞いて料理を決めたり食材の下準備を手伝っていただいたりしますが、調理までは行っていない。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	調理の下準備や後片付けのお手伝いをしていたことにはある。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	記録に残して把握できている。また、それを共有している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	利用者様それぞれの好み等を踏まえたうえで季節に合った献立にしたり、ご近所やご家族からいただいた旬の野菜を利用して調理したりしている。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	出来る限り一般的な家庭食卓の状態を提供しているが、咀嚼や嚥下の能力によってはミキサー食や刻み食で提供している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	使い慣れた食器を利用していただいたり、掴みやすい物や割れにくい物を用意したりしている。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	職員と利用者様が一緒に食卓につき、食事をしながら見守りやサポートをしている。個別での食事対応が必要な方は職員が見守りを行っている。			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	利用者様と同じ空間で調理しており、調理している様子や音やにおいも感じられるようになっていく。	◎		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	体調や体重の増減により食事量の調整を行い、体調不良時や水分摂取量が不足している時などは補助食品(エンシュア、アクトウォーター)も利用している。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	お汁やお茶の量の調整や、10時・15時の水分補給、入浴後の水分補給などを行っている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	献立表に記録を付けて、同じ料理が続くことがないようにしている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	週3回の食材購入を行い、イベント等のお刺身等の提供時は当日に購入している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	訪問歯科の活用や協力医による指導により、口腔ケアの必要性や重要性を学んでいる。				入居時「お口の健康チェック」シートに、舌の状態や義歯の状況を記録している。食べにくそうにしているような様子がみられたら口腔内を確認して必要があれば歯科医につなげている。  毎食後、声かけや誘導を行い、歯磨きができるよう支援している。協力歯科医による「口腔ケアマネジメント計画書」に沿って口腔ケアに取り組んでいる。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	ご家族の許可をいただいている利用者様は月2回の訪問歯科により把握できている。その他の方は職員による確認となっている。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	協力医からの資料をもとに学んでいる。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	毎月、たかのこ歯科の森先生に計画書を書いて頂きその指導のもと出来ている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	◎	声掛けを行い、歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等を行っていただいている。			◎	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	理解できている。出来る限り紙パンツやパッドを使用しないでいように支援している。				職員の気づきがあれば、その都度、また、申し送り時に話し合い支援を見直している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	利用者様それぞれの状況のより、水分摂取や服薬等を行い、定期的に排便が出来るようにしている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	介助が必要な方は把握できている。ご自身で排泄に行かれる方も、声掛け等によりリズムの確認を行っている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	毎月の職員会でおむつ等の使用状況や必要性を確認し、その時々状態にあった支援を行っている。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	少しでもスムーズな排泄が行えるように全職員で意見を出し合い、改善に向けた取り組みを行っている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	今までのパターンをもとに、早めの声掛けや対応を行っている。必要な場合は排泄のチェックシートを活用している。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういった時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	紙パンツやパッドを使用するときは、ご本人とご家族への報告を行っている。また他の案を希望される時は検討や対応を行っている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	ご本人やご家族の意見も取り入れ、使用する時間帯やサイズなどを選択している。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	服薬だけではなく、水分摂取やヤクルト・ヨーグルトなどの摂取もしている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	入浴を希望される方や拒否等は、出来る限り対応している。	◎		○	3日に1回、午前か午後か希望を聞きながら入浴を支援している。入浴剤を入れることもある。
		b	一人ひとりが、つろいだ気分に入浴できるよう支援している。	○	入浴剤を使用したり、重度の方も湯船に浸かれるように2人介助を行ったりしている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	ご自身でほぼ入浴できる方も必ず見守りを行い、安心して入浴できるように支援している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	入浴の日数や声掛けするタイミングを調整して、拒否なく入浴していただけるようにしている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	血圧や体温などのデータをもとに健康状態を確認し、入浴後も水分補給や爪切り等を行いながら状況の確認を行っている。				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	睡眠から起床を含め記録を残し、パターンを把握している。				安定剤や睡眠導入剤を服用している人が複数おり、主治医と相談しながら支援している。夜間、眠りにくいような利用者には、日中、外に出て過ごす時間をつくる等して安眠に向けて支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の活動や居室での仮眠などの記録を行い、自然な生活リズムを作れるようにしている。				
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	中のフロアでの生活や活動を心掛けて、出来る限り薬剤に頼らないように支援を行っている。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	フロアで眠たそうにされていたら、少し居室で休むように声掛けしてお連れしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	寂しそにされている不安になられているような時は、ご家族に相談してお手紙やテレビ電話等を出るように支援している。					
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。		スタッフの操作によりテレビ電話等の支援を行っている。					
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	電話でご家族とお話したいと言われたら、ご家族と相談して日時等を設定するようにしている。					
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	手紙等は利用者様にお見せし、希望される時はお返事を書けるように支援している。居室に見るように貼っている方もいる。					
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらい、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	理解、協力して下さっているも、電話や手紙をくれるよりも面会されることが多い。					
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解はしているが、お金は事業所で管理を行っている。					
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	日頃から買い物に行かれてはいない、外出支援でお土産屋さんに出向いた時には購入できる範囲の物を一緒に選んでいる。					
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	外お小遣いは別に金庫に預かっているも、個人の財布に数千円持っておられる方もいる。おれとして職員に渡されることもあり、ご家族と相談してお小遣いに足している。					
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入居時にご本人やご家族に説明を行っている。					
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	入居時にご本人やご家族に説明を行い同意を得ている。また管理や報告のルールも定めている。					
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	個別支援という形で支援している。	◎		○	利用者の病院受診時に、家族と一緒に職員も同行し、状態説明をするようなことがある。	
<b>(3) 生活環境づくり</b>										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関先や庭に植物や野菜を植えて、近隣の方とのふれあいや利用者様の活動の場になるようにしている。	◎	◎	○	玄関前に駐車スペースがあり、玄関までスロープを付け、ベンチを設置している。玄関には、正月の花を飾っていたりした。飼い猫が来訪者を迎えてくれる。さらに、建物周りは花木や果樹、畑等が充実しているが、手入れの必要を感じた。事業所の印象にもなるため、きれいに保てるように取り組みをすすめてほしい。	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を感じており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものを置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそくような感えになっていないか等)。	○	自然で家庭的な空間になるように、落ち着いた飾りつけにしている。	◎	◎	○	木の温かみを感じる自然素材で造られた建物で天井は高く、梁が見える。居間は、広く、ゆったりしており、テレビを囲んでソファを置いており、利用者それぞれが、お気に入りの場所を過ごしている。台所前の空間や畳の間の一角もあり、ちょっと雰囲気を変えて過ごせる造りになっている。台所やふろ場の入り口には、正月用のお飾りをつけていた。誕生日だった利用者のテーブルには、家族からの誕生日プレゼントのスイーパーの花束を添えていた。また、違うテーブルには小菊を添えていた。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	清掃や換気を行い、不快な臭いが残らないようにしている。また大きな音が鳴る場合には、その都度声掛けを行い驚かすことがないようにしている。			○	天窓から採光がある。居間の照明は、昼白色、電球色を使っている。テレビは、一日を通して小さな音で点けている。ペットのトイレの掃除や抜け毛の世話を小まめに行っている。	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の花を飾ったり、旬の野菜や果物をいただいた際には、調理前に利用者様にも見ていただくようにしている。またお花見や花火見学、野菜の収穫等も行っている。			○	窓から、田園や山の景色が眺められる。壁に手作りの日めくりを付けており、夜勤職員が日にちを替えるようにしている。	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	仲の良い方と一緒に過ごす方や、居室やテラスで一人で過ごす方など、それぞれの居場所を作れるようにしている。					
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	い慣れたものなどを使っていたり、ご家族からのお花やお手紙を飾って、利用者様が落ち着いて生活できるようにしている。	◎		◎	居室の窓から自宅からの見える景色と同じ景色が見えることで落ち着いて暮らしているケースがある。猫の中には、利用者を選んで一緒に寝るような猫もおり、利用者は、ベッドに猫用に毛布を敷いてあげていた。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わがこと」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	お部屋の名前やトイレ、浴室などの表示を行い、利用者様が認識し易いようにしている。また各所に手すりを設置している。			○	居間からトイレまでの経路案内のため、床に大きく「トイレ↑」と示している。時間を気にして何度も聞く利用者のために、居間の時計の横に、朝ごはんや昼ごはん、体操の時間等を書いて掲示していた。利用者間に聞かれた時には、指をさして確認してもらうようにしている。	
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	居室には利用者様のなじみのものをお持ちいただき、共用部はキッチン用品や新聞・本などを配置している。					
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられられない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけるなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	代表者及び全ての職員が日中に鍵をかけることの弊害を理解しており、法人内でも「身体拘束等適正化委員会」を開き、身体拘束が行われていないか3か月に1度は話し合い、その内容はフィードバックに参加していない職員に伝えていく。現在、飼っている猫が自力で戸を開け脱走をしようとするため、いつもではないが玄関戸に突張り棒を設置し防止していることがある。		○	◎	○	日中、玄関に鍵はかけていない。玄関戸には、「こちら開きます」と、開ける側の戸を示していた。ユニット入り口の引き戸(ガラス戸)は、猫が開けて出ていたため、少し開けにくくしている。内側から来訪者が見えるため、その都度、職員が開けるようにしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施設を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	ご家族様には、通常は施錠をしていないことを理解して頂いている。					鍵をかけることの弊害については、身体拘束適正化検討委員会時や事業所内研修時に理解を深めている。
<b>(4) 健康を維持するための支援</b>										
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	利用者様の個人情報記録・保管し、生活中も更新している。					
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	いつもと違う反応や会話なども記録に残し、引継ぎの際に見守りや経過観察を行うように周知している。					
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を楽しみ、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	看護職や協力医と相談できる体制が出来ており、健康状態の変化があればその都度対応を行っている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	協力医を基本の窓口とし、他の医療機関での検査や治療が必要な時は、ご家族と相談のうえ紹介状を書いていただくようにしている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	入居説明の際に協力医の説明を行い、直接会っていただくようにしている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	通院の仕方はご家族と相談を行い、検査結果の報告はご家族への連絡や書類のお渡し等で行っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	医療機関に利用者様に関する必要な情報を提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	ご家族から面会時の様子の連絡をいただいたり職員による面会を行っている。また、病院関係者とも連絡体制を築いている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	日々、変化や気になることは看護職と相談している。また体調に関することは協力医にも相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	訪問看護師と相談できる体制が出来ている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるような体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	毎朝バイタルチェックを行い、状態の変化があれば看護職や協力医と相談している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	服薬情報の確認を行い、用途の変更等があれば申し送りを行い周知している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	職員がお薬を保管し、必要なタイミングごとに直接利用者様にお渡しして服薬していただいている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	体調・精神の変化や副作用の確認を行い、何かあればすぐに看護職や協力医と相談・調整を行っている。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	重度化した場合にはご家族・協力医と話し合いを行い、意思や意向確認を行っている。また看取りが必要な場合にはご家族・協力医と今後の対応の検討と意思の共有を行っている。				入居時に「重度化に係る指針」に沿って説明し、本人や家族の意向を聞いている。状態変化時に、医師、家族、職員で話し合い、今後の方針などを共有している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	「重度化に係る指針」に基づき、協力医・ご家族・職員で共有し、ご家族には同意書をいただいている。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	◎	看護職・協力医と話し合い、支援の方針を見極めていく。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	入居時に対応・方針の書かれた情報をお渡しし説明を行っている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	入居時にご家族や協力医とどのような支援を行っていくか話し合いを行っている。また、状況の変化があれば、その都度話し合いを行っている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	話し合いや支援を行うことにしている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	法人内の研修や行政からの資料の周知により、対応策を学んでいる。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	法人内のマニュアルにより手順や体制を整えている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	市役所や包括からのメールにより最新の情報を入手し、インターネットも活用している。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	手洗いや消毒等、常に清潔な状態が保てるように支援している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
<b>II. 家族との支え合い</b>										
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	利用者様の日々の状況の報告や相談を行い、お互いに協力して支援していくように心掛けている。					
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	○	定期的な両ユニットの包丁研ぎに来られるご家族様がいる。また、大きなブリを釣ってご持参されたご家族様もいてホームで魚を処理できず、他のご家族様に頂いて頂き魚をおろして頂いた。	○		○	誕生会の折には、誕生日の利用者の家族も招待している。紅葉狩りドライブや紅マドンナ狩り、初詣の折には、近日、来訪のあった家族に口頭で誘い、各1家族の参加があった。	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録音、写真の送付等)	○	ご家族が面会に来られた時の近況報告や、毎月のご家族へのお手紙などでお伝えしている。	◎	◎	◎	月1回、個々の担当職員が、利用者の近況を手紙に書き、写真を添えて請求書送付時に同封している。家族がそれぞれの端末からログインして、利用者本人の記録(バイタルサインや食事量、日々の様子)や写真、動画等を見ることができるようになっており、半数以上の家族が利用している。	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	利用者様とご家族の関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように努めている。					
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営推進委員会にて報告を行い、その議事録をご家族にお送りしている。	○		○		毎月の手紙や運営推進会議の議事録を送付し、行事等について報告している。職員の入・退職などがあれば、請求書送付時に文書を同封している。
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	今後起こりうるリスクの説明を行い、今後の対応策について検討・調整を行っている。					
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	来訪された際は職員も会話をし、相談や希望を聞けるようにしている。				○	電話や面会時を捉えて、意見や要望はないか聞いている。家族がログインして介護記録等を見ることができ、家族から感想や意見をもらうことが増えている。
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	資料等を用いて管理者立会いのもと説明を行い、理解・納得を得て行っている。					
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退去される理由、退去先の情報を具体的に説明し、納得された場合、退去先へ利用者様の情報をお渡ししている。					
<b>III. 地域との支え合い</b>										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	改めた機会は設けていないが、町内会に参加しており、地域の清掃やお祭り等に参加した時にお話をする機会が多くあり、目的や役割を分かち合っている。		○			
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	日常的なあいさつや町内清掃などは行っている。		○	○	近くの農家の方たちと顔なじみの仲になっており、野菜をもらったり、事業所で作ったおやつをおすそ分けしたりして付き合いをしている。月に1回、地域の有志で行うサロンに参加しており、サロンメンバーが利用者の送り迎えもしてくれている。ボランティアの人が5～6年継続してかわわけてくれており、飼犬(20才)の散歩を続けてくれている。また、事業所で行う歌の会の折にリコーダーを吹いてくれたりしている。令和6年から森地区のふれあいサロンに利用者職員で参加しており、地域の人と一緒にホウ酸団子を作ったり、手遊びをして遊んだりしている。	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	挨拶をして下さる方や、野菜や花を持って来て下さる方は増えている。					
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	◎	秋祭りなどでは地域の方や子供たちも来て下さる。					
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	◎	野菜などをいただいたり、利用者様が庭に出ている時などに声を掛けていただいたりしている。					
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	◎	歌の会を行ってくださったり、ホームの犬の散歩に行ってください方もいる。					
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店、スーパー、コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	◎	ご利用者様がカット・パーマをしている間等、近所の美容院にご協力して頂いている。隣にある施設には自然災害があった際に協力頂くようお願いしている。隣りの教会でイベントがあると誘って下さり参加することもある。					
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	×	ワクチンを打てないご利用者がいたため、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等の感染予防対策として小規模で行っており、地域の方には参加して頂いていない。年末にその方を看取り、来年度からは通常に戻る予定。	○		○	この一年間は、利用者、家族、ボランティアの方、相談員、民生委員、地域包括支援センター、市の担当者の参加を得て集まる会議を行っている。	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	A棟、B棟のそれぞれの代表者が報告している。		○	○	会議時には、利用状況、職員体制、利用者の健康状況、ヒヤリハット、事故、行事(写真入り)を報告している。外部評価実施後は、評価結果と目標達成計画について報告を行った。10月の会議は「やわらぎカフェ」と併せて行い、会議メンバーと利用者が一緒にケーキバイキングを楽しむ機会をつくった。	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	日程や時間は決まっているが、テーマによっては案内状などを活用している。			◎		

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	法人の理念に基づき、利用者様がイキイキ・ワクワク過ごせるよう、全職員が共通して認識している。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	法人理念の中の『毎日イキイキ・ワクワクと過ごせるよう工夫と努力をします。』という部分を中心に伝えている。	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	それぞれの能力に合った研修に参加できるように、計画や声掛けを行っている。				法人の会長が花を持って来たり、山羊を連れて来たりしている。猫や犬を飼っており、利用者や職員の癒しになっている。 職員がいつでも水素水を飲めるように、法人が事業所に機械を設置している。クリスマスには、中学生以下の子どもがいる職員には、チキン2本、そのほかの職員にはクッキーとワインのプレゼントがあった。年1回、ストレスチェックを行っている。 法人代表者は、毎月の職員会等に出席して直接、職員の声を聞いている。 事務所の一室に足を伸ばして休憩できる場所を確保している。 8月には、法人内研修でマインドfulnessの講習があり、職員が参加した。「呼吸のめい想」の方法等を学び、ストレス解消につながっているようだ。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	日々の業務で教育を行うとともに、計画的に社内内外の研修受講や資格取得が出来るよう取り組んでいる。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	実情を把握し、どのようにすれば各自が向上心を持って働けるようになるか考えて、職場環境・条件の整備に努めている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	同業者が集まるセミナーへの参加や相互研修への参加により、職員間の交流や意識向上を目指している。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	毎月の職員会で自由に意見を求めたり、法人内の親睦会などで話をし、より良い環境になるよう取り組んでいる。	◎	◎	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃されることのないよう注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	◎	定期的に虐待に関する研修や事例検討を行い、理解を深めている。			○	職員は虐待防止に関する研修等で理解を深めている。また、系列事業所内で不適切なケアの事例があった場合、身体拘束委員会(法人内管理者で行う)前に、全職員にアンケート(提案等を聞く)を取って、委員会で検討している。委員会の内容は職員会時に伝達している。 職員は、不適切なケアを発見した場合、その場で本人に伝え、管理者に報告することと認識している。本人に、言いにくい場合は、スラック(コミュニケーションツール)でもいいので、管理者に報告することになっている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	毎月の職員会やチャレンジシートなどを活用して、話し合いや意見の確認などを行っている。				
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	定期的に職員の様子の確認や声掛けを行い、心身共に異常がないか注意を払っている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	マニュアルや手引きにより確認を行えるようにして、「緊急やむを得ない場合」に拘束が必要な時は、ご家族と話し合い同意書に確認のサインをいただいている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	月の職員会や事例検討、研修により、現状の点検や話し合いを行っている。				
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	ご家族から拘束や施設の要望があっても、他の対策やケアについて協議を行い、出来る限り身体拘束を行わないようにしている。				
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	管理者や職員は日常生活自立支援事業や成年後見制度について学んでおり、それぞれの利点等理解している。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	実際に成年後見制度を利用し司法書士の方と連携をとりながら支援した。また、ご家族様から相談を受け後見人移行の際、書類作成の支援を行った。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	△	「緊急時対応マニュアル」を作成しており、職員は周知している。9月に入職した職員に関しては周知できていない。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	定期的に訓練が出来ておらず、実践力を身に付けていない職員もいる。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手事前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故報告書やヒヤリハットの記録を残し、職員会や法人内で周知や再発防止の対応を行っている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	現状に合った対策を検討し、職員会や日々の申し送りの中で危険を回避する対応を行っている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	苦情マニュアルは作成しているも、職員全員では理解できていない。ただし、苦情があれば全員で検討し共有している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	速やかな対応に心掛け、東温市役所介護長寿課にも報告・相談を行っている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過と結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	話し合いを十分に行い、より良い関係づくりを目指して努力している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	玄関にご意見箱を設置しており、事業所の相談窓口を設置し、意見や要望などを受けようとしているが、こちらから別件で電話をした時などにお話を聞くことが多い。	◎		○	利用者には、日々のケアの中や運営推進会議時に聞いている。 家族には、面会や電話連絡の際に聞いている。	
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	東温市のガイドブックには苦情・相談窓口を案内している。					
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	月に1度の職員会議に出席し、会議の中や終わった後にも職員一人ひとりに話しかけている。					管理者は、月1回の職員会や日々の中で職員の意見や提案を聞いている。職員が作成するチャレンジシート(目標設定と成果等を記入するシート)は、代表者と管理者がアドバイス等を記入して目標達成を応援している。
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	日頃から小さなことでも話し合うことで意見や提案を聴きだしている。また、面接やチャレンジシートの交換をし口に出せない気持ちを知ることができている。			◎		
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	職員に対し、事業所のサービスの質の確保・向上を目的とすることを説明したうえで、自己評価に取り組む、より良いケアが提供できるように努めている。					
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	運営推進会議で取り組みの成果を発表し、事業所に課題を報告しているが、感染症予防対策の観点から、ご家族や行政が参加されおらず、議事録を送付して共有して買っている。達成に向けては取り組んでいる。					
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターしてもらっている。	○	ご家族様に今後の取り組みのモニターをお願いしており、課題に対してスロープを寄付して頂き解決したことがあった。	○	○	○	外部評価実施後は、評価結果と目標達成計画について報告を行った。 次の外部評価実施前の運営推進会議(12/18)時には目標達成計画内容の取り組み結果について報告して意見を聞いた。	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	運営推進会議で取り組みの成果を発表しているが、感染症予防対策の観点から、ご家族や行政が参加されおらず、議事録を送付して共有して買っている。また、玄関に置き誰でも閲覧できるようにしている。					
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	法人内でマニュアルを作成し、事業所ごとに見直し改定したもので周知を行っている。					
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	防災訓練のマニュアルを基に、日中や夜間帯を想定した避難訓練を年に2度以上行っている。					
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	事業所ごとに防災委員を選出し、定期的な委員会を開催して各項目の点検や確認を行っている。				3月には、消防署の協力を得て、地震からの火災を想定した避難訓練を行った。6月には、運営推進会議と併せ、消防署員のレクチャーのもと、AED(自動体外式除細動器)の使用方法を習った。	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	運営推進委員会と同時開催の避難訓練は行っている。	△	○	△	さらに、新たにつながりを持った地域包括支援センターが取り組む協議体(助け合い支え合い東温)は、令和6年のテーマが「防災」であることを受けて、管理者は、今後、地域との協力支援体制に向けて取り組みたいと話していた。 さらに、家族アンケート結果をもとに取り組みを工夫してほしい。	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	災害時を想定した施設での訓練はしているが、地域の共同訓練はできていない。 地域の避難場所までの避難経路は運営推進会議の議題として歩いて確認した。					
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	法人のホームページで、職員のブログを発信している。今年から、ユマニチュード技法を取り入れて実践しており、今後は地域にも発信していきたいと思っている。					
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	近所の高齢の方が体調不良の時には、困っていることがないか様子を見に行き、ホームで作ったおかずやおやつ、採れたみかんも差し入れしている。		△	△	見学に来る人の困り事について相談に乗っている。 今後は、地域の人がホームに訪れる機会「何でも話そう会」(仮名)を開きたいと考えている。どのように取り組んでいくのが運営推進会議の機会等を活かして話し合いを重ねてほしい。	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェイベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	地域のお祭りに庭に入って頂き、小さなお子様からお年寄りまで、神輿を囲み雑談ではあるもお話をしておごすことができました。ご利用者様も地域の方も喜ばれていた。					
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	今年は応募がなかったが、福祉科の生徒さんの受け入れや、介護助手支援活動には協力しており、今年度は学校から連絡があり、2年前に実習にこられた生徒さんを受け入れた。					
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	清掃等の地域活動にも参加し、今年から地域の神輿が復活して地域の子供達にお菓子配った。医療・福祉関係とは密に連絡を取りあい連携をとっている。市からの困難事例の方を受け入れ医療、市、社協と連携をとりながら支援した。				△	地域包括支援センターと連携して、サロンや協議体に参加している。